

「地区防災計画」 作成の手引き

目 次

I. 「地区防災計画」の作成にあたって -----	1
1 手引きの目的	1
2 検討の進め方	2
3 検討を進めるにあたって	3
4 地区防災計画の構成（例）	4
II. 「地区防災計画」の検討のポイント -----	5
1 計画の目的と基本的な考え方	5
2 地区の特性	5
3 活動体制	8
4 災害時の活動	9
5 平常時の活動	13
6 今後の活動に向けた課題と方向性	14
III. 計画ができたなら -----	16
1 計画提案の手続き	16
2 計画の見直し	16
IV. 資料 -----	17
V. 検討会の準備 -----	23
1 検討会の実施にあたっての心得	23
2 意見交換の進め方	24
3 検討会の進め方	25

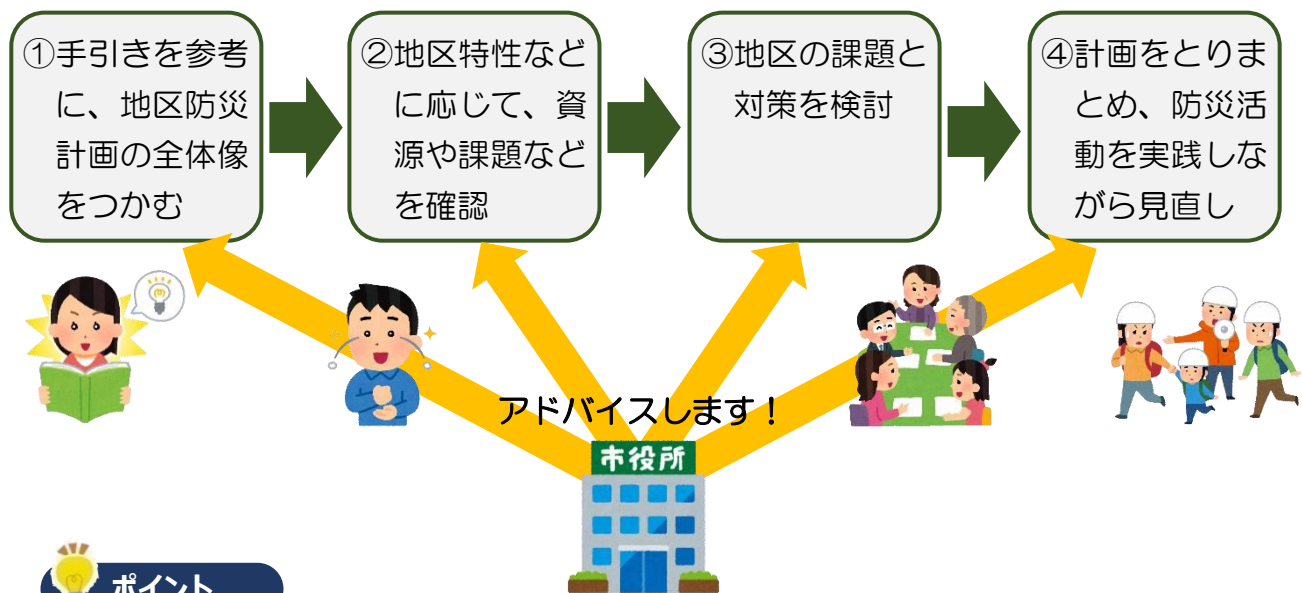
Ⅰ. 「地区防災計画」の作成にあたって

1 手引きの目的

地区防災計画は、自分たちのまちに災害が起きることを想定し、そのための準備と災害時の自発的な行動を、一定地区内の居住者などの皆さんで作る計画です。

この手引きや国のガイドラインを参考にして、地区防災計画の全体像をつかみ、皆さんのまちで計画作りを進めてみましょう。

★手引きを活用した計画作りのイメージ



ポイント

●手引きの中で紹介する「モデル地区」について

地区防災計画作りを広めていくにあたって、モデル地区として柳之宮自主防災組織の皆さんが計画作成に取り組みました。

皆さんがこれから計画を作る参考として、この手引きの中で柳之宮地区の地区防災計画の一部を紹介しています。

※手引きに出てくる「資源や危険箇所（課題）」について

「資源」とは、防災倉庫、消火栓、消火器設置場所、避難ができそうな公園・広場・空き地・駐車場、水害から逃れるための3階以上の建物など、災害から命を守るために有効なものや場所などをいいます。

「危険箇所（課題）」とは、冠水しやすい箇所、高いブロック塀、浸水時に危険となる突起物がある場所など、災害時や避難する際に危険と思われる箇所などをいいます。

2 検討の進め方

例えば、次のような進め方で検討してみましょう。

最初から完璧なものを目指す必要はありません。一度作成してみて、計画に基づき防災訓練などを重ね、自分たちのまちに合った計画に修正していくことが重要です。



3 検討を進めるにあたって

(1) 検討会について

さまざまな方が参加することで、多様な視点で検討することができます。

災害時は、支援が必要な方々（障がいのある方、高齢の方、妊産婦、子ども、外国出身の方など）への配慮も重要です。

検討会は、民生委員・児童委員、消防団、PTA、子ども会、老人クラブの方々や、事業者、社会福祉協議会、学校、福祉施設、NPO、ボランティアなど地区で活動している方々にも参加してもらいましょう。



ポイント

●女性メンバーを増やしましょう！

東日本大震災で被災した方の話として、「夜に一人で仮設トイレに行くのが怖かった。」「男性が物資を配っていて生理用品がほしいと言いつけなかつた。」といった声もありました。

検討会は、女性が参加できる曜日や時間に配慮し、できる限り参加していただき、多様な視点で話し合しましょう！

(2) 開催案内や検討経過の周知について

検討会の開催案内や検討の経過、出来上がった地区防災計画は、より多くの住民の皆さんに周知し、関心を高めましょう。

モデル地区の例 (町会の回覧による周知)

●開催案内

回覧

柳之宮町会では、今年度、地区防災計画の策定に取り組んでいます。

町会もより一歩進んで、検討会がより盛り上がるように、目標の達成に向けて、町会と町民の皆様は、今年度、地域の防災計画で取り組むべき地区防災計画の策定に向けた検討会を開催します。

来る9月11日には、検討会(第3回)を開催し、より盛り上がる地区防災計画の策定に向けた、第3回はとる準備は、地域の防災計画の策定に向けた、地区防災計画の策定に向けた準備を進めています。町会と町民の皆様は、今年度、地域の防災計画で取り組むべき地区防災計画の策定に向けた検討会を開催します。

▶ 柳之宮町会(第2回)の様子(柳之宮町会)

柳之宮地区 地区防災計画 検討会 (第3回)

地区防災計画の全体像を確認しよう！

日 時：令和元年 10月5日(土) 9:30~11:30

集合場所：柳之宮公民館 【会場案内図】

講 題：地区防災計画の全体像の確認
(予定) 防災体制について
次回検討会の方向について

第3回以降のスケジュール

11月2日(土)	・防災的なチームの検討会
12月1日(日)	・防災的なチームの検討会
2月2日(日)	・とりまとめ(町会内外、今後の課題の確認)

令和元年 9月 10日
柳之宮町会 会長 田村 拓

●検討経過

検討会(第2回)の様子

9月1日に、柳之宮公民館にて検討会(第2回)を開催しました。当日は21名の方が集まり、まち歩きや資料交換を通して、地区の状況や課題を確認しました。

当日の主なプログラム

- 1 防災レクチャー**

東京大学の最先生に講師をお願いし、「地区防災計画の役割」についてお話いただきました。

 - 地区防衛
 - ・災害のリスクを把握し、課題を町民と共有することが重要である
 - ・自治会が中心で地域で話し合いを行うことで、課題を共有し、解決することが重要である
- 2 まち歩き**

地区内を歩きながら、災害時に危険な場所や、防災上必要な場所を確認しました。

 - まち歩き(予定)した主な経路(写真)
 - ・水害時に危険な場所
 - ・備蓄品に利用できる防災グッズ
 - ・避難時に利用できる場所(写真)
- 3 グループ討議・全体で情報共有**

まち歩きで確認した情報も、実際に書き込みながら集約の進行を行いました。

 - まち歩き
 - ・災害時に危険な場所を確認し、危険な場所を共有
 - ・電柱や電線が倒壊した場合の危険性
 - ・備蓄品の不足を確認し、共有
 - ・地区防災計画の策定に向けた課題を確認し、共有
 - ・地区防災計画の策定に向けた課題を確認し、共有

4 地区防災計画の構成（例）

計画作成にあたっては、次の内容を参考に、地区の特性に応じて防災活動の考え方や内容を計画に盛り込んでみましょう。

〇〇地区防災計画

0. はじめに

- ・計画の目的
- ・基本的な考え方

1. 地区の特性

- ・対象とする区域
- ・地区の特性
- ・防災マップ

2. 活動体制

- ・本部
- ・班構成と活動内容

3. 災害時の活動

- ・本部と各班の活動
- ※水害時／震災時を分ける場合は明記

4. 平常時の活動

- ・各家庭で取り組むこと（自助）
- ・地区で協力し合って取り組むこと（共助）

5. 今後の活動に向けた課題と方向性

○資料編

○様式集

II. 「地区防災計画」の検討のポイント

1 計画の目的と基本的な考え方 資料：17 ページ

地区の皆さんが、地区防災計画について共通認識を図りたいことをまとめます。
内容は、

- 計画の目的
- 基本的な考え方 など

といったものです。モデル地区の例を参考にしてみるのも良いでしょう。

2 地区の特性

計画の対象とする区域を決めて、地区の特性を分析します。

(1) 対象とする区域

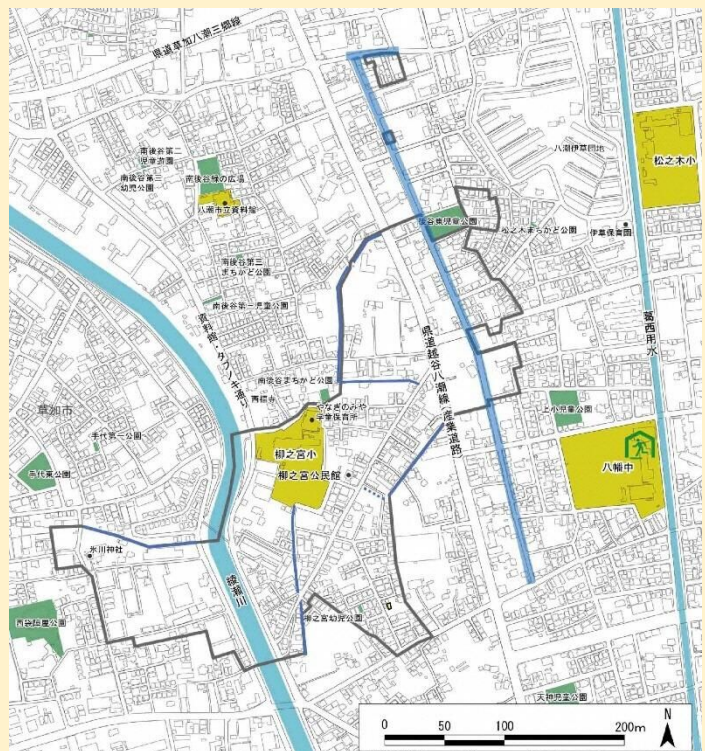
自主防災組織が作成する場合は、その町会・自治会の区域が基本になります。

地区の特性によっては、昔からつながりが深く、日頃の活動も一緒にやっていることが多い地区では、複数の自主防災組織と一緒に計画を作ることもあります。

モデル地区の例

- 町会の区域を対象にしました。
- 計画には、区域を地図で示しました。

※市で町会・自治会別の白地図のデータを用意しています。
区域図の作成に活用してください。

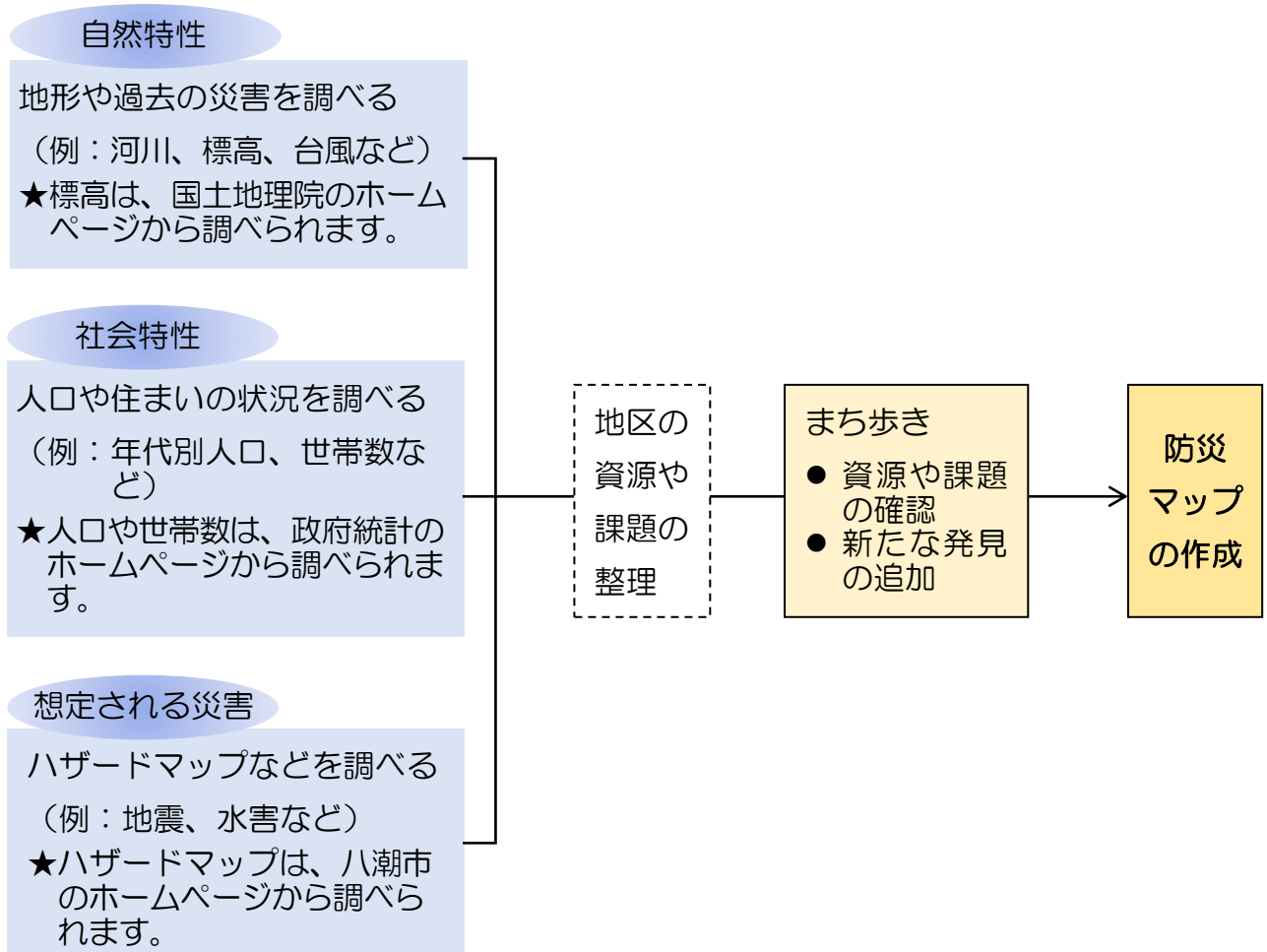


(2) 地区の特性

資料：17ページ

計画を検討する上で、地区の資源（強み）や課題（弱み）は何かを考えてみましょう。まず、自然特性や社会特性、想定される災害などの情報を集めて、整理しましょう。地区の資源や課題を整理したら、実際にまちを歩いて資源や危険と思われる箇所などを確認し、新たな発見は地図に書き込み、防災マップを作成して、情報を共有しましょう。

★地区の特性の整理のしかた



モデル地区の例

次のような点を整理しました。

- 自然特性
 - ・市内における位置や周辺の主要な道路や河川、標高 など
- 社会特性
 - ・人口や世帯数、年齢構成、外国人人口、持ち家率 など
- その他
 - ・最近の災害履歴 など

(3) 防災マップ ---- → 資料：18 ページ

①まち歩き

資源や危険と思われる箇所を実際に歩きながら、地図上に記入します。

- 資源や危険と思われる箇所を事前にチェックポイントとして挙げておきます。
- まちを歩き、確認したチェックポイントについては、決めた凡例や色で地図上に記入します。また、チェックポイント以外にも気づいた点を記入します。
- 歩いた後、皆さんが地図上に記入した資源や危険箇所（課題）を付箋紙に書き出して、発表し合いながら情報を共有する「ふり返し」をしましょう。
- ふり返しで気づいたことについても、付箋紙に書いて追加します。
- グループを分けてまち歩きをした場合は、ふり返りの結果を発表し合って情報を共有します。



モデル地区の例 (資源と課題)

4. まちあるきのポイント

- 震災** × **資源**
- 安全な場所に整備・設置されているかなども確認
- 防災倉庫、消火栓、消火器の位置
 - 公園・広場
 - 一時避難ができそうな空き地や駐車場
 - 地区内の事業所や町工場



4. まちあるきのポイント

- 水害** × **課題**
- 地盤が低いところ
 - 蓋のかかった水路(暗渠) 蓋のない水路(開渠)
 - 浸水時に危険となる突起物 雨水マンホール
 - 街灯がない(夜間暗い)箇所



②防災マップ

まち歩きをして確認した資源や危険箇所を地図に整理して、防災マップを作ります。完成した防災マップは、地区防災計画に記載し、地区で情報を共有します。

モデル地区の例 (防災マップ)

- 担当者が変わっても更新しやすいように、よく使われているソフトで作成しましょう。
(例：ワード、パワーポイント)



3 活動体制

基本となる活動体制について検討します。

(1) 本部

町会長・自治会長を本部長として、各班の活動拠点となる本部を設置します。

(2) 班構成と活動内容

日頃から行っていることは、いざという時にも行いやすいと言われていています。そのため、日頃の活動内容に近い形で班を構成することが望ましいと考えられます。

班構成は、組織の規模や地区の実情を踏まえて、自主的に活動するために必要な最低限の班で構成し、必要に応じて徐々に拡大していきます。

また、各班の平常時・災害時などにおける具体的な役割分担を決めておきます。

班構成と活動内容について例示しますので、参考にしてみましょう。

★班構成と活動内容の例

班名		平常時の活動内容	災害時の活動内容
総務班	⇒	全体調整、要配慮者の把握	全体調整、被害・避難状況の把握
情報班	⇒	情報の収集・共有・伝達	情報の収集・共有・伝達（報告活動など）
消火班	⇒	器具点検、防災広報	初期消火活動
救出・救護班	⇒	資機材調達・整備	負傷者などの救出、救護活動
避難誘導班	⇒	避難路、指定緊急避難場所、指定避難所などの確認	住民の避難誘導活動
給食・給水班	⇒	器具点検	水、食料などの配分、炊き出しなどの燃料確保、給食・給水活動
連絡調整班	⇒	近隣の他団体との事前調整	他団体との調整
物資配分班	⇒	個人備蓄などの啓発活動	物資の確保・搬送・配分、物資需要の把握
清掃班	⇒	ごみ処理ルールの検討	ごみ処理の指示
衛生班	⇒	仮設トイレの対策検討	防疫対策、し尿処理
安全点検班	⇒	危険箇所の確認・周知	危険箇所の巡回、立ち入り禁止などの広報
防犯・巡回班	⇒	警察との連絡体制の検討	防犯・防火巡回活動
応急修繕班	⇒	資機材、技術者との連携検討	応急修理の支援

モデル地区の例

町会	自主防災組織	活動内容
町会長 /副町会長 /会計幹事	本部	○町会の初期対応全般を指揮 ○市や関係機関などとの連絡 ○町会の人員の把握及び会計
監事/総務部	情報・連絡班	○情報収集、伝達及び幹事 ○安否確認
福祉育成部/隣組	警戒班	○避難所への誘導 ○避難所及び町会内の巡回、警備
厚生部	消火・救護班	○防火、初期消火 ○人命救助支援
環境整備部 /管理部	生活支援班	○避難所内で町会が使える活動空間や生活空間の確認、確保 ○テント設営 ○野外トイレの構築 ○食料、水の確保 ○炊き出し ○物資の配布

※モデル地区では、リーダーとなる人が少ないので、人数に合わせて複数の役割をまとめた班にして活動します。

4 災害時の活動

資料：18～20 ページ

災害時に必要な防災活動を考えます。

(1) 活動の考え方

まず、自分や家族の安全を確保した上で、水害では洪水になる前から、地震では発生直後から情報を集めて、地区の特性を踏まえた臨機応変な活動が求められます。

初動期は役員を中心に活動し、落ち着いたところで本部や各班を立ち上げる方が良いでしょう。被害の状況も想定し、検討しましょう。

(2) 本部と各班の活動

本部と各班の活動内容を考えていきます。モデル地区の例を参考に活動内容を検討しましょう。

自分や家族の行動と必要な取組を考える

地区内にどのような人がいるか考える

地区でどんな活動が必要か考える

班と活動内容を考える

モデル地区の例

※モデル地区の内容を一部修正して例示しています。

本部の活動

1. 市との情報受伝達

□町会長は、市と地区の被災状況や市からの災害情報について、適宜、情報の受伝達を行う。

2. 本部立ち上げ

□町会長は、市と地区の被災状況や市からの災害情報について、適宜、情報の受伝達を行う。

(例：中川、綾瀬川などの河川水位、市内道路の冠水状況、町会内の要援護者や子どもだけが在宅の家庭の状況)

□避難所や市の動きなどを踏まえて町会長が必要と判断した時に自主防災組織本部を設置することとし、町会長は役員にその旨を連絡する。

■本部場所

□小中学校や町会・自治会会館など

※学校内の使用可能教室などは、学校職員と相談し指定された場所を使用するものとする。

3. 本部の運営

□本部開設、本部の役割及び人員募集などについて周知する。

□自分の身の安全を確保できている住民に住民協力者として協力してもらい、皆で助け合う。

モデル地区の例

4. 避難所との情報共有と連絡調整

- 市からの情報などを把握し、情報・連絡班とともに学校職員との連絡調整を行う。

5. 市との連絡調整

- 小中学校の災害時用公衆電話設置を確認する。
- 一般の電話が通じない場合、避難所に配備されている無線機又は災害時用公衆電話で市と連絡をとる。
- 安否確認状況や道路や橋、建物などの地区内の被害状況を分かる範囲で報告する。

■市へ情報伝達すべき事項(例)

- 地区内の被害状況
- 避難所の開設・閉鎖時間
- 避難者数

6. 活動の記録

- 今後の活動の参考として、自主防災組織での活動内容の記録（日誌、写真など）を残しておく。

情報・連絡班の活動

1. 町会からの情報収集・発信

- 避難所の決められた場所に情報掲示板を配置する。
- 各班や各家庭からの被害情報を取りまとめ、記録する。

2. 台風対策の呼びかけ

- 台風予報が出たら、地区内に事前の対策に関する呼びかけを行う。

3. 要援護者への避難呼びかけ

- 警戒レベル2（大雨注意報・洪水注意報）になり、今後さらに雨風が強くなることが予想される場合は、要援護者の自宅を回り、避難所又は2階以上への避難準備の声掛けを行う。
- ひとりで避難が困難な要援護者に対しては、警戒班や消火・救護班に要援護者の避難支援を要請する。

4. 安否確認

- 地区内に大規模な浸水が発生した場合（大地震が発生した場合）など、状況に応じて本部の指示により、安否確認を実施する。
- 組単位で協力しながら安否確認を行った上、本部へ報告をする流れを基本とする。

モデル地区の例

警戒班の活動

1. 冠水しやすい箇所の注意喚起

- 冠水しやすい箇所で通行規制の看板を準備している箇所は、台風予報などの情報を踏まえて看板を設置する。

2. 避難所の巡回

- 避難所が閉鎖されるまで、避難所内を巡回する。

3. 町会内の巡回

- 台風が去り雨風が落ち着いたら（地震の場合は定期的に）、町会内を巡回する。
- 危険箇所などがあった場合は、本部に報告する。
- 住宅などの被害（床上・床下浸水、家屋の倒壊など）があった場合は、本部に報告する。

消火・救護班の活動

1. 在宅避難者の生活復旧支援

- 台風が去り雨風が落ち着いたら、在宅避難をしている要援護者の自宅を訪問し、安否確認をするとともに、生活復旧の支援をする。
- 訪問時に必要な物資がないかを確認する。

2. 在宅避難者への物資配給

- 要援護者などの在宅避難者へは、必要に応じて物資配給を行う。

3. 救援・救護活動に向けた準備（震災時の活動）

- 防災倉庫から救援・救護に必要な防災資機材を搬出し、作業点検を行う。
- 防災資機材を利用する者は、責任者へどこで使用するかを報告し、責任者は各資機材の所在を把握しておく。
- 持ち出した資機材は、救援・救護が終わったら本部へ返却する。

4. 救援・救護活動（震災時の活動）

- 警戒班からの被災状況などの情報を基に、救援・救護の優先順位を判断する。
- 消火・救護班及び住民協力者で救援隊（1隊概ね10人程度）を編成する。
- 救援隊での救出が困難と判断した場合は、無理に救援をしようとせず、本部に連絡し、消防救急の要請を行う。

モデル地区の例

生活支援班の活動

1. 避難所の生活ルールなどの検討・周知

- 避難してきた方と協力し、使用できる場所などの使い方を決め、避難者に周知する。

2. 物資の管理・配給

- あらかじめ備蓄品数量を把握しておく。

各家庭の活動

- 大雨・台風情報、河川水位、避難情報、避難所開設情報などをテレビのデータ放送などにより情報収集を行う。
- 家族の安否確認を行う。
- 住宅などの被害（床上・床下浸水、倒壊の恐れなど）があった場合は、本部に連絡する。
- 避難所に避難する際は、通電火災防止のため、ブレーカーを切る。

5 平常時の活動

資料：18～22 ページ

平常時の取組を考えます。

(1) 活動の考え方

災害時にできることの多くは、日頃からやり慣れていることです。
地区の皆さんの力が、自然な形で引き出されるように工夫しましょう。
平常時の取組として、次のような内容が考えられます。

- 各家庭で取り組むこと（自助）
 - ・ 自宅や家の周りの安全確認及び対策
 - ・ 町会・自治会のイベントや防災活動への参加
- 地区の皆さんが協力し合って取り組むこと（共助）
 - ・ 災害時の活動に向けた具体的な検討
 - ・ 防災訓練などの実施
 - ・ 自助の啓発活動
 - ・ 計画の見直し
 - ・ 年間活動計画の検討

(2) 各家庭と地区の皆さんが協力し合って取り組む活動

モデル地区の例を参考に活動内容を検討しましょう。

モデル地区の例

各家庭の活動（自助）

1. 自宅や家の周りの安全確認及び対策

- 家具、冷蔵庫、テレビなどの転倒防止対策を行う。
- ガラス飛散防止、消火器の設置、建物やブロック塀の耐震性の確認などを行う。
- 水や食料を最低3日分、できれば7日分を備蓄しておく。
- 災害時の消火や生活用水として、お風呂には水を張っておく。また、いざという時に備えバケツを用意しておく。
- 自分の家から火事を出さないよう心掛ける。
- 地震発生後は、通電火災防止のため、停電でも必ずブレーカーを切る。
- 非常時の連絡方法は家族内であらかじめ複数決めておく。（災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板の体験など）
- 市ホームページ、やしお840メールサービス及びテレビのNHKデータ放送など災害時の情報収集手段の確認を行う。
- 水害に対する備えとして、マイ・タイムラインを考える。

モデル地区の例

2. 地区の活動への参加

- 町会行事などに参加して、隣近所同士で顔が見えるお付き合いをするように心掛ける。

地区の皆さんが協力し合って取り組む活動（共助）

1. 体制づくり

- 町会長と役員を中心とした各班の必要人数、責任者及び担当の振り分けを決めておく。

2. 避難所(学校)との連携方法の確認

- 学校の避難所の部屋割り、避難スペースの割り振りを確認しておく。
- 学校の資機材の使用方法を確認する。
- 学校に保管している市の備蓄品を確認する。
- 災害時用公衆電話の使用方法を確認する。

3. 市との連携方法の確認

- 避難所に配備される市との連絡用無線機の使用方法・ルールを確認しておく。

4. 安否確認方法の検討

- 安否確認の方法や手順を検討する。

6 今後の活動に向けた課題と方向性

最初から完璧な計画を目指す必要はありません。

まずは無理なく実行できる内容で一度計画をまとめ、できないことは課題として整理しましょう。

★課題のとりまとめの視点

- 体制や運営などについて
- 水害に関する活動について
- 震災に関する活動について
- 他の町会・自治会などと協議が必要なこと
- 事業所や活動に協力してもらえる人を広く求めていくこと など

モデル地区の例 (今後の活動に向けた課題と方向性)

①体制や運営などに関して

検討課題	課題	方向性
指定避難所の運営	<ul style="list-style-type: none"> 避難所運営について具体的な検討がされていない（部屋割りなど）。 〇〇小学校は、複数の町会が対象となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇小学校及び関係町会と避難所運営に関して検討
隣接町会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 当地区は、道路や川で分断されている。 〇〇小学校以外の避難所に避難する住民も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接町会との連携（情報共有など）
地区内の連絡体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 複数の避難所に会員が分散して避難することが考えられるため、安否確認などで混乱を招くことが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内での連絡体制のあり方の検討
人的ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の活動に関しての人手が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民協力者として人材の把握（職業や得意なことの把握）

②災害に関する活動に関して

検討課題	課題	方向性
高い建物の所有者などとの避難協定に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> 当地区は、2階以下の戸建て住宅が多くを占めている。 家や避難所以外でも3階以上の建物への一時避難できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 3階以上の建物所有者との避難協定の検討 防犯面などを考慮すると、外階段がある建物などに依頼をするのが望ましい。
各班の具体的な活動内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> 各班の具体的な活動内容が検討されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 優先すべき事項から、具体的な内容を検討
安否確認	<ul style="list-style-type: none"> 安否確認の具体的な方法が検討されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 組単位による安否確認方法の検討
事業所などとの資機材支援に関する協定の検討	<ul style="list-style-type: none"> 地区内には、小さな町工場などが点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> トラック、フォークリフト、ジャッキなど、災害時に活用できる資機材の支援に関する協定の検討

Ⅲ. 計画ができたら

1 計画提案の手続き

地区居住者等の皆さんが、作成した地区防災計画を八潮市防災会議に対して提案を行います。

2 計画の見直し

計画を作成した際に出てきた課題は、防災活動を継続しながら少しずつ検討していきます。

日頃から、計画に基づく防災訓練などを重ね、地区に合った計画に見直していくことが重要です。

(1) 計画の見直し

地区防災計画は内容が古くなったり、忘れてしまわないように、次の点に気を付けて、定期的に見直すよう心掛けましょう。

【留意事項】

- 活動の対象範囲や活動体制（役割分担）を変える必要はないか
- 地区における重要なことに変化はないか
- 長期的な活動予定に変更はないか
- 実際の活動が実体のあるものになっているか
- 防災訓練、備蓄などの事前対策、教育・研修などが十分に行われているか

(2) 忘れてしまわないための工夫

- 計画に基づいた防災訓練を毎年行うこと
- 防災訓練の結果について、市などを交えて検証を行い、課題を把握して活動を改善すること
- 年に1回、どんな小さなことでも見直したり、協定先と連絡担当者や内容について確認をすることも、計画の形骸化を防ぎます。



IV. 資料

5 ページ : 「1 計画の目的と基本的な考え方」

- 内閣府 みんなでつくる地区防災計画

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/index.html>

- 内閣府 地区防災計画ガイドライン（冊子）

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/guidline.pdf>



6 ページ : 「2 (2) 地区の特性」

【人口、世帯数、持ち家率】

e-Stat 政府統計の総合窓口 平成 27 年国勢調査 小地域集計 11 埼玉県

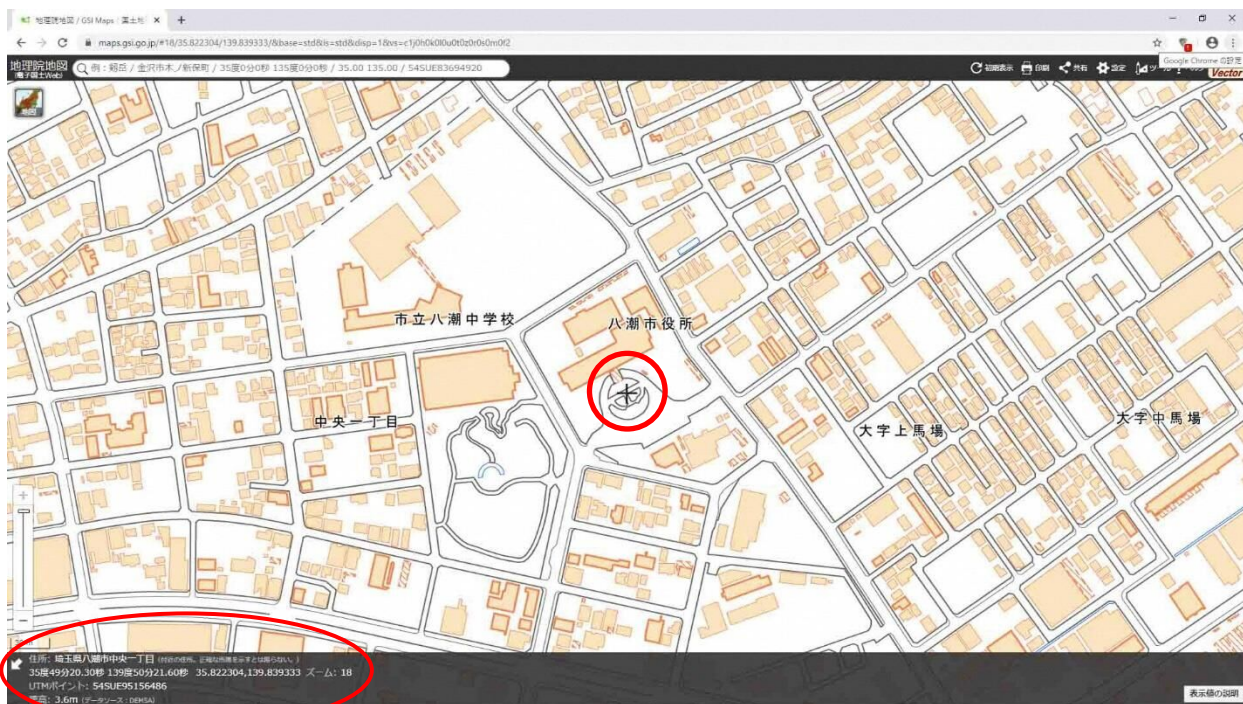
<https://www.e-stat.go.jp/> より検索

【八潮市のハザードマップ】洪水／地震／内水ハザードマップ

https://www.city.yashio.lg.jp/kurashi/bohan_bosai/bosai/hazardmap/index.html

【土地の標高】国土地理院「地理院地図」

<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&vs=c1j0h0k0i0u0t0z0r0s0m0f1>



知りたい場所をクリックすると、標高が表示されます。

※その他、20 ページの洪水になった場合の浸水のシミュレーションも参考にしてください。

7ページ:「2(3) 防災マップ」

～歩き始める前に～

- **課題と資源** 自然特性や社会特性、想定される災害を踏まえて、災害時に課題となること、役に立ちそうな資源を考えてみましょう。これらを歩きながら確認します。
- **ルート設定** 資源や課題を地図上に書き込み、それをつないで概ねのルート案を作ります。1時間以内で歩ける距離を目安にして、地区が広い場合は、ルートを複数設定してグループを分けて歩くことも考えましょう。
- **役割分担** リーダーは時間を管理し、その他の人で記録係や写真係、調査係、発見係などの係を分担しましょう。発見係は細かいことも課題と資源になるものは他の係に伝えます。各係を2名以上にしたり、残った人は全員が発見係になるなど、全員で分担しましょう。
- **準備** 次のものを用意します。課題や資源を記入する凡例や色も決めておきましょう。

記録係	画板／複数色のペン／地図	調査係	メジャー／地図
写真係	カメラ／地図	発見係	メモ用の付箋紙／ペン／地図
ふり回り	大きな白地図／太めのサインペン／写真印刷用のパソコンとプリンター		

9ページ:「4 災害時の活動」、13ページ:「5 平常時の活動」

～各家庭、町会・自治会でも集められる情報について～

【やしお840メール】

八潮市では、市政情報や緊急情報を携帯電話とパソコンの電子メールへ配信しています。受信を希望される方は、QRコードを読み取り、表示されたメールアドレスへ空メールを送ってください。

カメラ機能（バーコードリーダー）がない方は、次のメールアドレスへ空メールを送ってください。

（メールアドレス）yashio@840mail.jp



登録窓口の
QRコード

【八潮市公式 SNS】

八潮市では、市の情報を多くの方に知ってもらえるよう、八潮市の公式 SNS（ツイッター、フェイスブック）による情報発信を行っています。

（ツイッター） https://twitter.com/kochokoho_840
（フェイスブック） <https://www.facebook.com/840kochokoho>

【テレビのデジタル放送の情報】

テレビのリモコンの「dボタン」又は「データ」と書かれたボタンを押すことで、いつでも必要なときに最新の災害情報や避難所情報、交通やライフラインの情報などを見ることができるサービスです。

「NHKデータ放送」 <https://www.nhk.or.jp/data/>

- ①NHK にチャンネルを合わせ「d」ボタンを押す
- ②表示項目の中から「地域の防災・生活情報」を選択し、「決定」ボタンを押す。



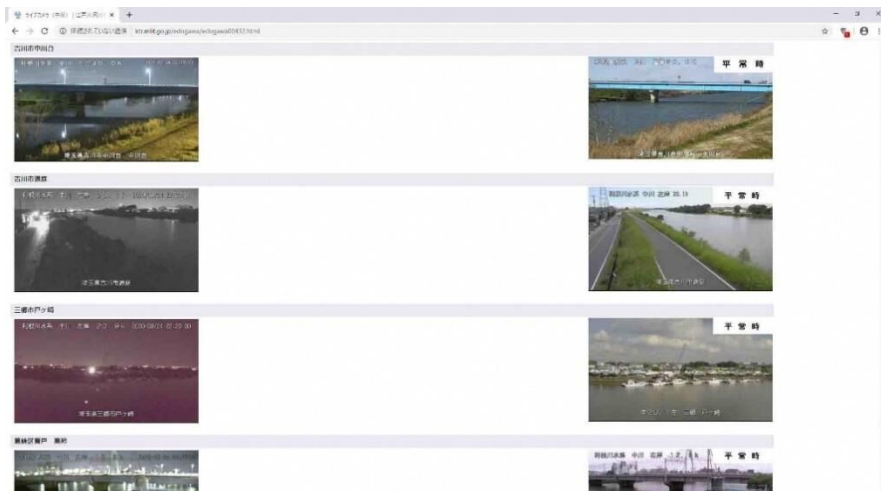
【国土交通省の河川情報】

①中川・綾瀬川の現在の川の状況をライブカメラ画像で見ることができます。

- 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所 ライブカメラ（中川）
<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00432.html>
- 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所 ライブカメラ（綾瀬川）
<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00539.html>

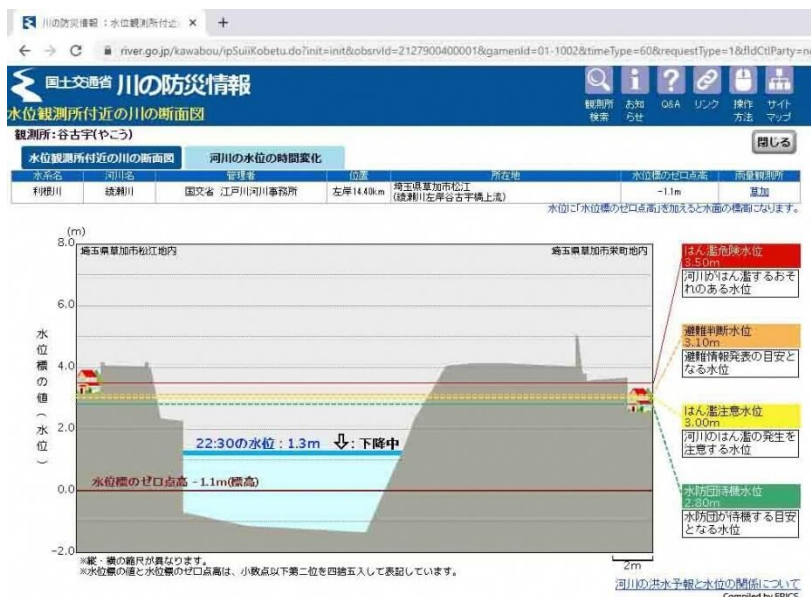
※10分毎に更新されています。

※この情報は、無人観測所から送られてくるデータを観測後、直ちにお知らせする目的で作られています。そのため、観測機器の故障や通信異常等による異常値がそのまま表示されてしまう可能性があります。利用の際にはご注意ください。



②中川・吉川水位観測所や綾瀬川・谷古宇水位観測所の現在の水位を確認することができます。

- 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所「河川防災情報」から外部リンク
<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00039.html>
 ⇒国土交通省 川の防災情報 中川（観測所：吉川）－（吉川市）
 ⇒国土交通省 川の防災情報 綾瀬川（観測所：谷古宇）－（草加市）



9 ページ : 「4 災害時の活動」、13 ページ : 「5 平常時の活動」

～各家庭、町会・自治会でも集められる情報について～

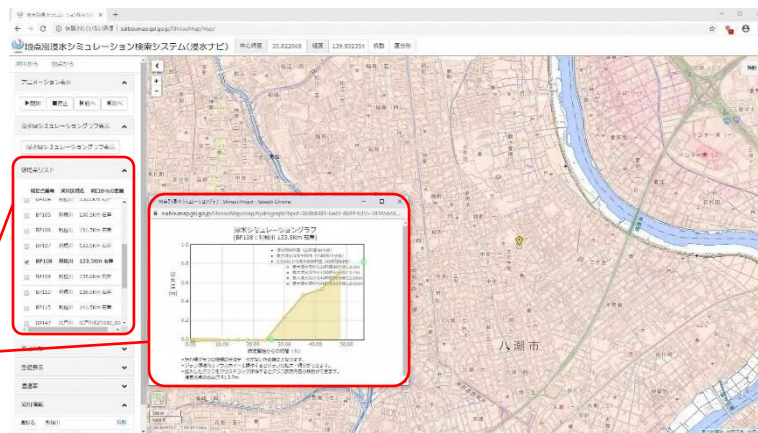
【国土交通省の河川情報】

③洪水になった場合の最大の浸水深や、浸水の時間のシミュレーションができます。

●国土交通省「地点別浸水深シミュレーション検索システム（浸水ナビ）」

<https://suiboumap.gsi.go.jp/ShinsuiMap/Map/>

浸水深が最大になる破堤点を選んだり、最大浸水深や浸水継続時間などが表示されます。



13 ページ : 「5 平常時の活動」

～各家庭での備えについて～

【八潮市ホームページ：地震への備え】

非常時の備えや住まいの安全点検などについて紹介しています。

大地震などの災害の後には、水道・ガス・電気などが長時間にわたって供給されないことが予想されます。また大規模災害では、市の備蓄物資の供給にもある程度時間がかかることが想定されます。最低でも3日分（推奨7日分）の生活の備えをしておきましょう。

https://www.city.yashio.lg.jp/smph/kurashi/bohan_bosai/bosai/jishinhenosona/index.html

【八潮市ホームページ：風水害への備え】

水害時の避難行動や水害・土砂災害の防災情報の伝え方などについて紹介しています。

「自らの命は自ら守る」という意識を持ち、防災気象情報を参考にしながら自らの判断で避難行動をとるよう心掛けましょう。

https://www.city.yashio.lg.jp/smph/kurashi/bohan_bosai/bosai/huusuiigaihenosona/index.html

【国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所ホームページ：みんなでマイ・タイムライン】

水害については「マイ・タイムライン」を作ってみると、整理がしやすくなります。マイ・タイムラインは、地形の特徴や過去の洪水といった自宅周辺のリスク、洪水発生時に得られる情報などの情報を「知る」ことから始め、そこから「気づく」ことや自分自身に置き換えて「考える」ことを記入していくことで、洪水発生時に自分自身がとるべき防災行動を時間の経過に沿ってとりまとめることができます。

紹介映像や、検討のための手引きやツールがダウンロードできます。

<https://mytimeline.river.or.jp/>

(参考) マイ・タイムライン作成例

『マイ・タイムライン』をつくってみよう！！

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えをいつから行動するか書いてみよう！

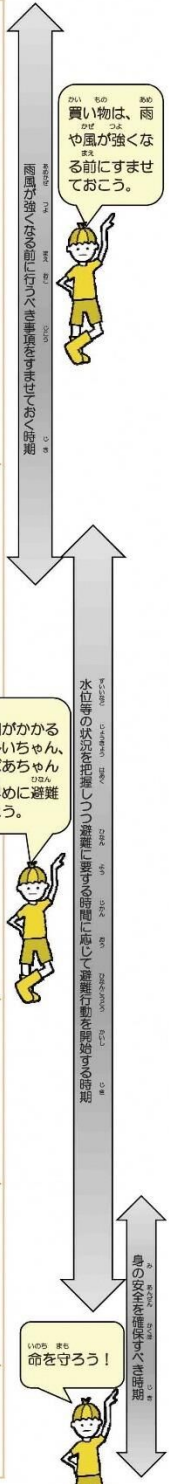
みんなが考えた「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えが『マイ・タイムライン』だよ！

マイ・タイムライン 作成年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日

し ま ち む ら	ち く 地 区	け 家	マイ・タイムライン
<p>3日前</p> <p>行政から発信される情報</p> <p>行政が発信される情報</p> <p>台風予報</p> <p>台風が発生</p> <p>「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまで</p>	<p>2日前</p> <p>台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる</p> <p>台風が発生</p> <p>天気予報で台風が近づいてきて、雨や風が強くなる。まだ雨や風は強くない。</p>	<p>1日前</p> <p>雨が集まって、川の水がだんだん増える</p> <p>雨が集まって、川の水がだんだん増える</p> <p>自分のいるところで雨が降ると、近くでも、上流で雨が降れば川の水は増えてくる。</p>	<p>主な備え</p> <p>いつ、どんな備えをしたら良いか考えてみよう！</p> <p>工. 今後の台風を調べ始める</p> <p>今後の台風を調べ始める</p> <p>台風の進み方をチェック</p> <p>家族全員の今後の予定を確認</p> <p>マイ・タイムラインを確認</p> <p>ウ. 避難する時に持って行く物を準備する</p> <p>持ち物をリュックサックに入れる</p> <p>家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認</p> <p>カ. 住んでいる所と上流の雨量を調べ始める</p> <p>住んでいる所と川の上流をチェック</p> <p>ハザードマップで避難場所、避難手段を確認</p> <p>オ. 川の水位を調べ始める</p> <p>パソコンで見る</p> <p>携帯電話の充電</p> <p>通行止め情報がないかインターネットで確認</p> <p>隣町への避難の開始を判断</p> <p>イ. 避難しやすい服装に着替える</p> <p>動きやすい靴で避難</p> <p>市内の高台への避難の開始を判断</p> <p>川の水位をインターネットで確認</p> <p>市内の指定避難場所への避難を判断</p> <p>携帯メール等で避難準備情報の受信</p> <p>ア. 安全な所へ移動を始める</p> <p>浸水しない市の体育館や公民館</p> <p>携帯メールで緊急速報メールを受信</p> <p>避難完了</p> <p>0時間</p> <p>氾濫が発生</p> <p>川の水が氾濫</p> <p>川の水位が急激に上がり、浸水が始まる。避難場所へ避難する。</p>
<p>5時間前</p> <p>避難準備水の到着</p> <p>避難準備水の到着</p> <p>避難準備水の到着</p> <p>避難準備水の到着</p>	<p>激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる</p> <p>激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる</p> <p>このまま進めると、川の水位があがるかも。</p>	<p>3時間前</p> <p>川の水がいっぱいであふれそう</p> <p>川の水がいっぱいであふれそう</p> <p>もうギリギリ。川の水があふれる前に、安全なところへ逃げなさい！</p>	<p>準備の(例)</p> <p>テレビの天気予報を注意</p> <p>今後の台風を調べ始める</p> <p>家族全員の今後の予定を確認</p> <p>マイ・タイムラインを確認</p> <p>通勤分の車を病院に受け取りに行く</p> <p>避難する時に持って行く物を準備する</p> <p>家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認</p> <p>テレビ、インターネット、携帯メール等で雨や川の様子に注意</p> <p>家族全員の今後の予定を再確認</p> <p>住んでいる所と上流の雨量を調べ始める</p> <p>ハザードマップで避難場所、避難手段を確認</p> <p>隣町の親戚の家に家族みんなで避難することを電話</p> <p>川の水位を調べ始める</p> <p>携帯電話の充電</p> <p>通行止め情報がないかインターネットで確認</p> <p>隣町への避難の開始を判断</p> <p>避難しやすい服装に着替える</p> <p>隣町への避難を完了</p> <p>市内の高台への避難の開始を判断</p> <p>川の水位をインターネットで確認</p> <p>市内の指定避難場所への避難を判断</p> <p>携帯メール等で避難準備情報の受信</p> <p>移動に時間がかかる人は、市内の指定避難場所への避難の開始を判断</p> <p>安全な所へ移動を始める</p> <p>川の水位をインターネットで確認</p> <p>市内の高台への避難を完了</p> <p>市内の指定避難場所への避難を完了</p> <p>携帯メールで緊急速報メールを受信</p> <p>携帯メールで避難勧告、避難指示を受信</p> <p>自宅内の浸水が想定されない場所での身の安全を確保</p> <p>テレビで洪水予報の確認</p> <p>携帯メールで緊急速報メールを受信</p>

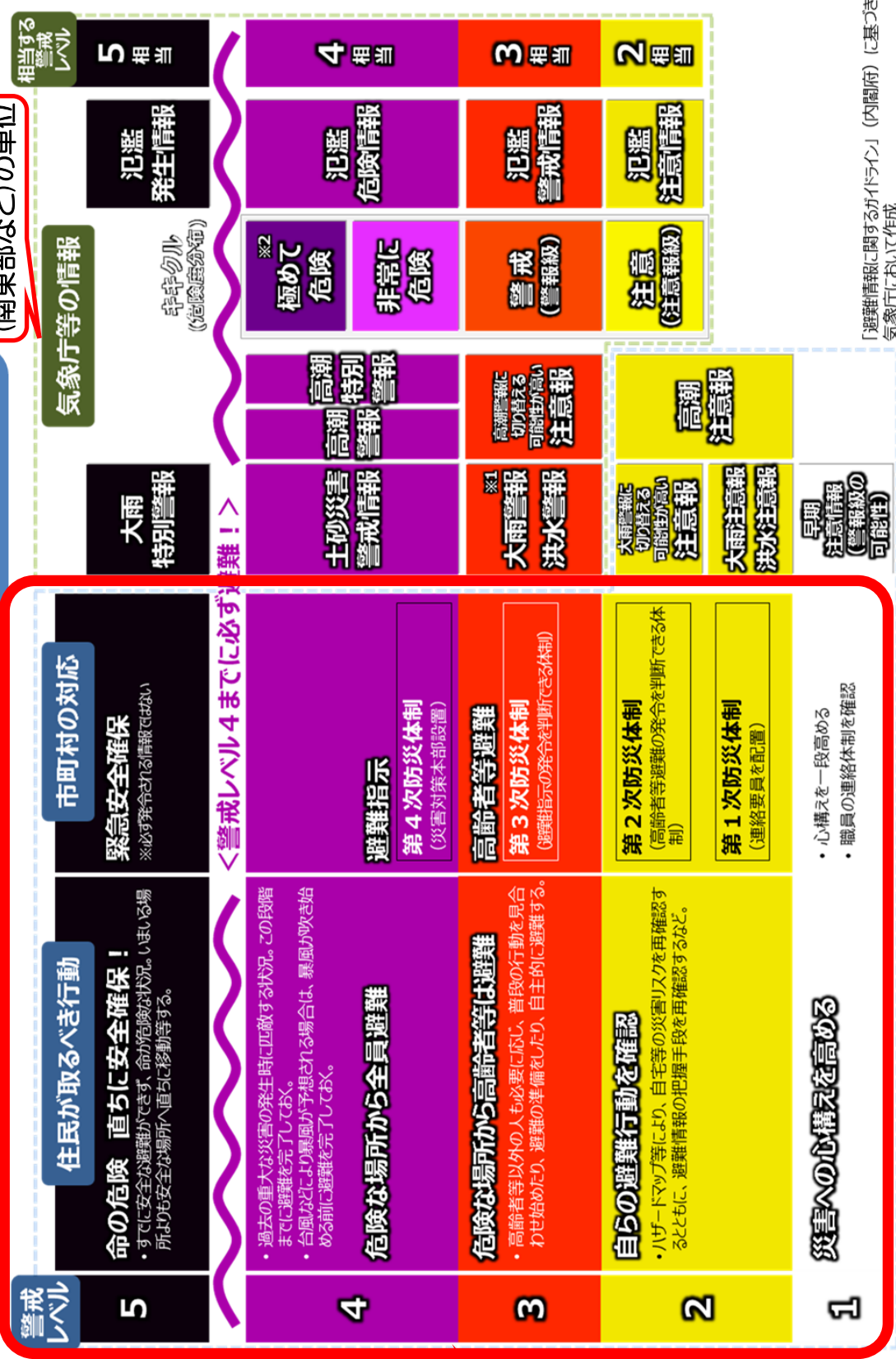
気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間はイメージで記載しています。避難勧告等のタイミングは市町村によって異なります。市町村のタイムラインを確認してください。

「台風が発生」から「川の水が氾濫」するまでの備えは万全ですか？それぞれの防災行動について家族と一緒に考えてみよう！



(参考) 水害の「警戒レベル」

5段階の警戒レベルと防災気象情報



地区の単位

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※1 夜間～翌日早期に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。
 ※2 「極めて危険」(濃い紫)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発令された際の警戒レベル5(緊急安全確保)の発令対象区域の範囲に活用することが考えられます。

V. 検討会の準備

1 検討会の実施にあたっての心得

(1) 検討会メンバーが参加しやすい頻度・時間帯を設定する

はじめに、検討会の回数や開催時期など全体スケジュールを決め、検討会メンバーと共有しましょう。検討会の頻度は、前後の準備を鑑み、1～2か月に1回程度が望ましいでしょう。

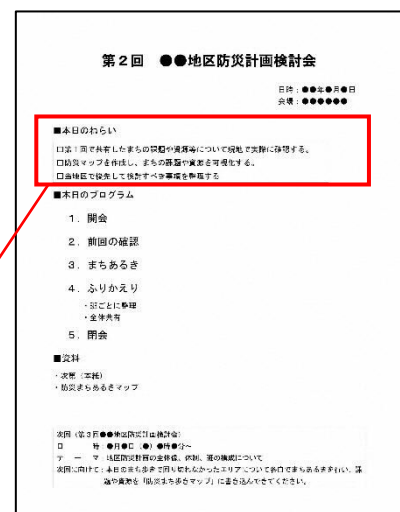
また、多くのメンバーが参加できるように、各メンバーが参加しやすい曜日、時間帯に設定することも重要です。

(2) 各回の目標（ねらい）を全員で共有する

検討会の開催にあたっては、各回の目標（ねらい）を決めて、参加者全員で共有することで有意義な議論を重ねていくことができます。

配布する次第に、目標（ねらい）を明記しておくこと、参加者も何を議論するか理解しやすくなります。

次第に明記して目標（ねらい）をメンバーで共有します

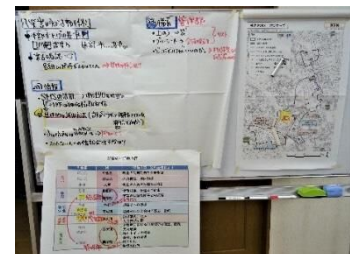


(3) 各回の最後にふり返りの時間をつくる

各回の議論を有効的にまとめていくため、毎回、検討会の最後にはふり返りの時間をつくり、その日に話し合った内容を全体で確認しましょう。

その日の議論のポイントは、ホワイトボードや模造紙などに記録をしながら進めると、スムーズにふり返りをすることができます。

- 文章を書かず、意見のキーワードを書くのがコツです。特に大事なキーワードは色を付けて強調すると最後に確認しやすくなります。
- 付箋紙に書くと、後で意見のまとめごと整理し直しやすくなります。



(4) 次回の検討テーマを事前に共有する

一人ひとりが次回までに予習して検討会に臨むことができるよう、毎回、検討会の最後に次回の検討テーマを全体で共有しましょう。

例えば、水害について話し合う時には、マイ・タイムラインなど、各自でできるワークを事前に宿題として用意することで、次回のテーマのイメージがより具体化され、有効的な議論につながります。

2 意見交換の進め方

(1) 各回のプログラム、役割分担を決める

毎回、プログラムに合わせて司会や説明役、記録係などの役割分担を決めておきましょう。

各回のプログラムは、次ページ以降を参考にしながら作成しましょう。

(2) 少人数に分かれてアイデアを出しあい、意見交換を行う

参加者全員が一つでも意見を出せるように、参加者の人数に応じてグループを分けて意見交換を行うことが有効です。(ワークショップ形式の話し合い)

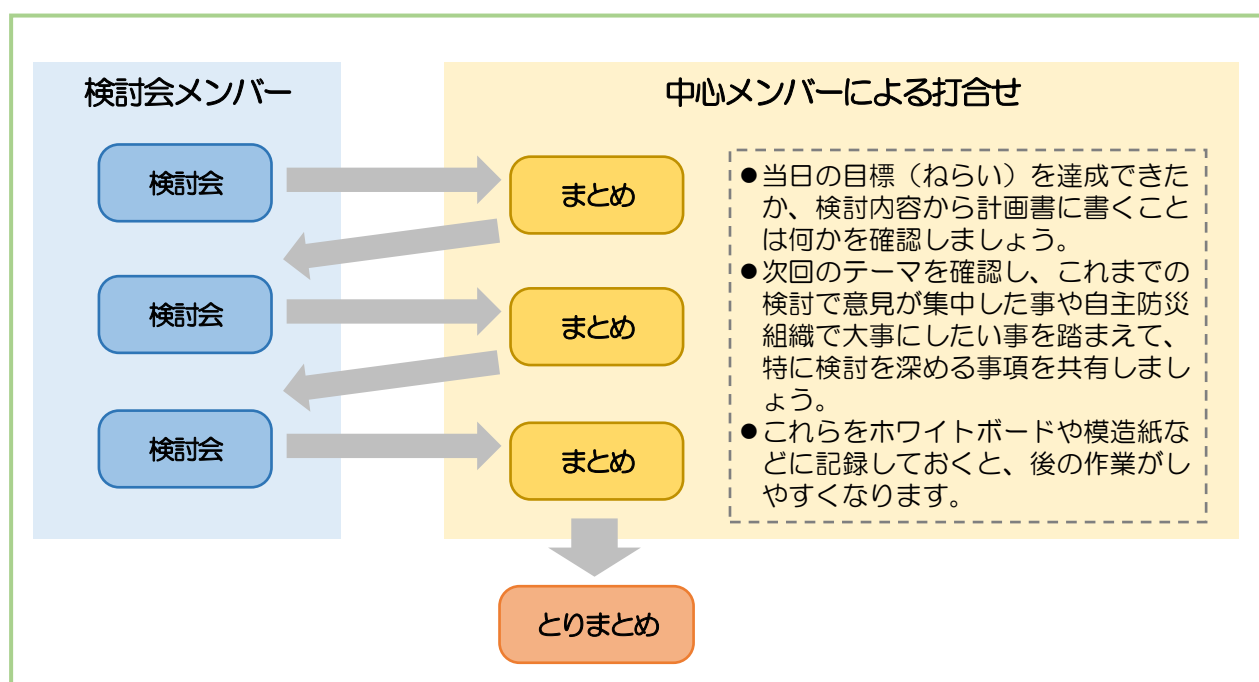
【ワークショップ形式の話し合いのポイント】

- 所要時間 : ・グループごとの議論は、最低でも 30 分程度確保する。
- グループ分け : ・各グループの人数は、約 8 名以下になるようにする。
・グループごとに世代や性別、所属に偏りが出ないようにする。
- 役割分担 : ・グループごとの進行役や記録係を決めておく。

(3) 中心メンバーで打合せを行う

各回の議論を積み重ねていくため、毎回の検討会后、会長や役員などの検討会中心メンバーで、その回で出された意見などを整理し、次の検討会の作戦を練る時間を確保しましょう。

各グループで出た意見は、検討会の意見としてまとめ、次の検討会でふり返りの資料として用意すると、毎回の意見を積み重ねながら計画をまとめていくことができます。



3 検討会の進め方

次のプログラムの例を参考に、取り組んでみてください。

検討会メンバーは、開催案内を通して、参加を広く呼びかけましょう。

【各回共通で準備するもの】

- 名札（お互いの名前が分かるように。自分で書いてもらうと準備が簡略化できます。）
- 受付名簿、白地図、ハザードマップ、付箋紙、サインペン、模造紙

(1) 第1回検討会（勉強会）

【目標・ねらい】

- 地区防災計画とは何かを理解する
- 地区防災計画検討会のスケジュールと進め方を共有する

【資料など】

- 地区防災計画の説明資料、ハザードマップなどの地区特性に関する資料

【プログラム】 司会：〇〇、Aグループ：進行役：〇〇、記録係：〇〇、Bグループ：・・・・・・

時間 (所要時間)	次第	内容
9:30 (5分)	1. 開会 - 会長あいさつ - 次第の確認	あいさつの例： この地区の防災の課題として～がある。地区に合った独自の防災計画を作っていきたい。
9:35 (20分)	2. 地区防災計画とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地区防災計画とは」、「地区防災計画の内容」について説明 ・ 話し合いのルールや付箋紙の書き方を説明（人の意見を否定せずにアイデアを広げる、1枚の付箋紙に1つの意見を簡潔に書く、など）
9:55 (15分)	3. 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を通して参加者から質疑応答を受ける
10:10 (45分) (15分)	4. 意見交換 - グループごとに意見出し - 全体で共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の課題、特徴、冠水地点など、地区について知っている事、感じている事を付箋紙に書いて、意見を出し合う ・ 意見は、資源、課題、水害、地震などに分類する ・ 各グループの主な意見を発表し、全体で共有する
11:10 (5分)	5. 閉会 - 次回案内	※ 次回の検討テーマをアナウンス
11:15	終了	
11:20	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返り ・ 次回の確認

【モデル地区での主な意見】

- 過去に浸水したことがあり、台風の時に冠水しやすい場所がある。
- 水害に対する不安が大きいですが、地震についての認識が低い。
- 地区が道路や川で分断されている。

(2) 第2回検討会（まち歩き）

【目標・ねらい】

- 第1回で共有したまちの課題や資源などを現地で実際に確認する
- 防災マップを作成し、まちの課題や資源を可視化する
- 優先して検討すべき事項を整理する

【資料など】（参考：7、18ページ）

- まち歩きのルート案（できれば第1回で共有したまちの課題や資源なども書き込んでおく）、
画版、カメラ、メジャー

【プログラム】 司会：〇〇、Aグループ：進行役：〇〇、記録係：〇〇、Bグループ：・・・・・・

時間 (所要時間)	次 第	内 容
9:30 (5分)	1. 開会 -会長あいさつ -次第の確認	※（開始前）災害の映像があれば映写して、災害への備えの必要性を感じ取ってもらう <u>あいさつの例：</u> 日頃見ている地区を今一度、災害時の地区の強み・弱みの面から、歩きながら考えてみてもらいたい。
9:35 (10分)	2. 前回の確認 -説明	・前回の検討会での主な意見を紹介
9:45 (10分) (50分) (5分)	3. まち歩き -まち歩き準備 -まち歩き -休憩	・まちを歩きながら、震災と水害に関して、グループごとに資源や危険と思われる箇所を記録する ・グループの全員が調査係、写真係、記録係、発見係等の役割を分担して調査する
10:50 (25分) (10分)	4. ふり返り -グループごとに整理 -全体で共有	・発見した震災と水害に関する危険箇所や資源を地図に整理して記入し、防災マップを作成する 例) 震災：(危険箇所) 幅の狭い道、高いブロック塀や石塀、など (資源) 防災倉庫、避難の集合場所となる公園・広場、避難や活動で重要な道、など 水害：(危険箇所) 冠水しやすいところ、開渠、段差のある箇所、など (資源) 避難できそうな高い建物、など ・気づいた点は付箋紙に書き出す ・各グループの主な意見を発表し、全体で共有する
11:20 (5分)	5. 閉会 -次回案内	※次回の検討テーマをアナウンス
11:25	終了	
11:30	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	・ふり返り ・次回の確認

【モデル地区での主な意見】

- 縁石などの突起物は冠水時に見えないので、転んでしまう恐れがある。
- 電柱や古いブロック塀は、倒れた際に緊急車両の通行の妨げになる恐れがある。
- 町会に飛び地が存在するので、発災時には、町会の単位に関係なく周囲と協力体制をとれるようにすることが必要である。

(3) 第3回検討会

【目標・ねらい】

- 基本となる活動体制について検討する
- 災害時の活動で優先して検討すべき事項を確認する
- マイ・タイムラインについて知る

【資料など】

- 班構成と活動内容（参考：8ページ）、災害時の活動で優先して検討すべき事項、マイ・タイムラインの説明資料

【プログラム】 司会：〇〇、Aグループ：進行役：〇〇、記録係：〇〇、Bグループ：・・・・・・

時間 (所要時間)	次第	内容
9:30 (5分)	1. 開会 -会長あいさつ -次第の確認	あいさつの例： 地区の強み・弱みを踏まえて、どのような体制で取り組むとよいか、多くの意見を出し合っていきたい。
9:35 (5分) (10分)	2. 前回の確認 -説明 -補足の意見交換	・前回の検討会で作成した防災マップについて説明 ・防災マップについて、追加、修正すべきことについて意見交換
9:50 (10分) (20分)	3. 活動体制について -説明 -グループごとに意見出し	・「班構成と活動内容」について説明（参考：8ページ） ・各グループで意見交換を行い、気づいた点は付箋紙に書き出す
10:20 (10分) (25分) (15分)	4. 災害時の活動で優先して検討すべき事項の確認 -説明 -グループごとに意見出し -全体で共有	・優先して検討すべき事項について意見交換を行う 例) 共通：本部の立ち上げ基準（時期、メンバーなど） 災害時要援護者への対応 震災時に地区としてやるべき活動内容： 安否確認 水害時に地区としてやるべき活動内容： 避難の基準とタイミング 避難の対象者 高い建物の所有者などの避難協定、など ・気づいた点は付箋紙に書き出し、項目ごとに整理する ・各グループの主な意見を発表し、全体で共有する
11:10 (10分)	5. マイ・タイムラインについて (宿題の説明)	・マイ・タイムライン（水害について自身が「いつ、何をするのか」を整理し、まとめたもの）の意義と内容を説明し、次回までに考えてきてもらうように説明（参考：21ページ）
11:20 (5分)	6. 閉会 -次回案内	※次回の検討テーマをアナウンス
11:25	終了	
11:30	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	・ふり返り ・次回の確認

【モデル地区での主な意見】

- 近隣町会を含めた連携体制や町会内の連絡体制を考えることが重要である。
- 安否確認について、具体的にどのように行えばよいか考える必要がある。

(4) 第4回検討会

【目標・ねらい】

- マイ・タイムラインを用いて、水害時の動きを時系列で確認する。
- 水害時の班ごとの活動に関する議論を行う。

【資料など】

- マイ・タイムラインの説明資料
- ワークシート

ワークシートのイメージ

各班のすべき活動	
本部	
情報連絡班	
警戒班	
：	

【プログラム】 司会：〇〇、Aグループ：進行役：〇〇、記録係：〇〇、Bグループ：・・・・・・

時間 (所要時間)	次 第	内 容
9：30 (5分)	1. 開会 -会長あいさつ -次第の確認	<u>あいさつの例：</u> 前回検討した体制で、水害時を中心に、活動の具体的な内容や必要な準備などについて検討していきたい。
9：35 (10分) (10分)	2. 前回の確認 -説明 -補足の意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の検討会での主な意見を紹介 ・適宜、質問や意見を受ける
9：55 (15分) (50分) (20分)	3. マイ・タイムラインと水害時の活動 -マイ・タイムラインについて解説 -グループごとに意見出し -全体で共有	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題（マイ・タイムライン）をグループ内で発表する。 ・地区に合った、具体的な活動について意見交換 <p>例）具体の活動項目</p> <p>本部：市との情報受伝達 本部立ち上げ、運営</p> <p>情報・連絡班：町会からの情報収集・発信 要援護者への避難呼びかけ</p> <p>警戒班：冠水しやすい箇所の注意喚起 避難所内の巡回</p> <p>消火・救護班：在宅避難者の生活復旧支援 在宅避難者への物資配給</p> <p>生活支援班：避難所の生活ルール等の検討・周知、物資の管理・配給</p> <p>各家庭：情報収集、安否確認、など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づいた点は付箋紙に書き出し、項目ごとに整理する ・各グループの主な意見を発表し、全体で共有する
11：20 (5分)	4. 閉会 -次回案内	※次回の検討テーマをアナウンス
11：25	終了	
11：30	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返り ・次回の確認

point !

発表したマイ・タイムラインの行動を踏まえて、さまざまな人のケースを想像してみましょう。

9～12 ページを参考に、地区で行うと良い活動を考えてみましょう

【モデル地区での主な意見】

- 避難の判断が難しく、また、避難所となる学校へは、普段から通い慣れていないこともあり、避難所に行きづらい。
- 一人暮らしの高齢者や子どものみで留守番をしている世帯に対して、近所で声掛けを行っていくことが大切である。

(5) 第5回検討会

【目標・ねらい】

- 水害時における地区の災害時活動の流れを確認する。
- 震災時に地区として対応すべき活動を整理する。
- 震災時における安否確認について、具体的な活動方針を検討する。

【資料など】

- ハザードマップ ※対象区域を拡大したものがよい
- ワークシート ※水害時と同じフォーマットでよい

【プログラム】 司会：〇〇、Aグループ：進行役：〇〇、記録係：〇〇、Bグループ：・・・・・・

時間 (所要時間)	次第	内容
9:30 (5分)	1. 開会 -会長あいさつ -次第の確認	あいさつの例： 今回は震災時を中心に、活動の具体的な内容や必要な準備などについて、多くの意見を出し合っていきたい。
9:35 (10分) (10分)	2. 前回の確認 -説明 -補足の意見交換	<ul style="list-style-type: none"> • 前回の検討会での主な意見を紹介 • 適宜、質問や意見を受ける
9:55 (10分) (55分) (20分)	3. 震災時の活動 -説明 -グループごとに意見出し -全体で共有	<ul style="list-style-type: none"> • ハザードマップから、地区の「揺れやすさ」「建物倒壊危険度」「液状化危険度」について説明 • 地区に合った、具体的な活動について意見交換 ※参考：第4回の「例」具体の活動項目 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p>point !</p> <p>「どのような世帯」が「どのような困りごと」に直面するか、想像してみましょう。</p> <p>9~12 ページを参考に、地区で行うと良い活動を考えてみましょう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 気づいた点は付箋紙に書き出し、項目ごとに整理する • 各グループの主な意見を発表し、全体で共有する
11:20 (5分)	4. 閉会 -次回案内	※次回の検討テーマをアナウンス
11:25	終了	
11:30	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	<ul style="list-style-type: none"> • ふり返り • 次回の確認

【モデル地区での主な意見】

- 町会の活動のみならず、家族で安否確認の方法を話し合って決めておきたい。
- 隣近所で行った安否確認の情報を、町会や市に伝える手段を考える必要がある。
- 平常時から物資の備えに関する啓発ができると良い。

(6) 第6回検討会（地区防災計画及び防災マップ披露）

※回覧による開催案内を活用して広く参加を呼びかけ、まとめた地区防災計画を多くの人に知ってもらいましょう。

【目標・ねらい】

□ 地区防災計画の到達点を説明し、多くの人たちに理解を深めてもらう。

【資料など】

- 地区防災計画、防災マップ、
- 防災訓練の案（次第4が例1の場合）
- 防災レクリエーション備品（次第4が例2の場合）

【プログラム】 司会：〇〇、説明役：〇〇、記録係：〇〇

時間 (所要時間)	次 第	内 容
9：30 (5分)	1. 開会 -会長あいさつ -次第の確認	あいさつの例： これまで検討してきた地区防災計画を、今日は大勢の方に向けて説明するので、ぜひ自分事として考えて頂きたい。今後防災訓練などを通して、計画を実効性の高いものにしていくので、そのためのご意見も頂きたい。
9：35 (10分)	2. これまでの検討について	・これまでの検討経過を簡単に説明
9：45 (30分) (20分)	3. 地区防災計画と防災マップについて -地区防災計画と防災マップの説明 -意見交換	・災害の映像を映写するなど、災害への備えの必要性を感じ取ってもらう。 ・地区防災計画と防災マップを説明 ・地区防災計画や防災マップの内容や、今後の防災活動の進め方について、参加者から質疑応答を受ける
10：35 (45分)	4. (今後の防災活動を見据えた企画) 例1：翌年度の活動企画について 例2：防災レクリエーション	・今後の防災活動の意欲向上に繋がる企画を実施する 例1) 翌年度に取り組む防災活動とスケジュールなどの進め方を検討する(防災訓練の内容に関する意見交換、など) 例2) 災害への備えや防災活動の大切さなどを再認識するために、防災レクリエーションを実施する(防災クイズ、ビンゴ、など)
11：20 (5分)	5. 閉会 -会長あいさつ	
11：25	終了	
11：30	役員会 (中心メンバーによる打合せ)	・最終回と検討会通しの反省、感想 ・今後の進め方の確認

【モデル地区での主な意見】

□ この防災計画が当地区だけで完結せず、今後は近隣町会との連携も含めて防災活動を考えていきたい。



八潮市マスコットキャラクター

「ハッピーごまちゃん」

発行：八潮市 生活安全部 危機管理防災課
令和2年3月作成（令和3年5月更新）

〒340-8588 埼玉県八潮市中央一丁目2番地1
電話：048-996-2111（代表）
FAX：048-995-7367